

牛ヶ峰のピクライト玄武岩：中部支部巡検会報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-07-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 櫻井, 美津夫 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025477

牛ヶ峰のピクライト玄武岩

—— 中部支部巡検会報告 ——

櫻井美津夫*

地学会中部支部の巡検会は、昭和61年11月30日、静岡市北西部の牛ヶ峰を中心に行われた。標高716mのこの山は、「高山」という地図上の名称より、牛ヶ峰と呼ばれることが多い。市街地からバスで30分程のところであり、家族向けハイキングコースとして、また、遠足のコースとして市民に親しまれている。この日も、巡検会の案内に応じて、家族そろってあるいは、子ども連れで参加された方が何組かみられ、たいへんほほえましく、また、うれしく感じた。

午前9時、晩秋のさわやかな青空のもとに、自家用車やバスを利用して、美和中学校前に15名の参加者が集合した。あいさつの後、講師の長島副会長から、牛ヶ峰周辺の地質概略の説明があり、日程・コースの説明を聞いてから、登り口である敷地へ向けて出発した。

今流行の「森林浴ハイキング」と銘打って参加者を募ったのであるが、敷地からの登りは、予想以上に急坂で、息づかいも荒くなり、シャツもそでをまくり汗をふきふき「ハイキングじゃなくて、体力作り登山だな。」などと冗談を言いながら頂上を目指した。

約2時間で頂上に到着。眼下に広がる静岡平野や、雪をかぶった富士山・南アルプスの景色を眺めながら昼食をとった。その後、十数年前までこの頂上付近にあり、昔話にも出てくる小さな池をさがしたが見あらず、スゲの仲間が多く生えている凹地があったため、おそらくこのあたりだろうというところで池さがしは終わった。

頂上から谷沢方面に30分程下ったところにあるスギ林の中に、本日の目的であるピクライト玄武岩の岩塊が見られる。露頭なのか転石なのか判断しかねるが、鉄さびの赤茶色の数ミリメートルの穴だらけの石は、一度見たら忘れないだろう。ピクライト玄武岩は、日本では産出する所が少ない珍しい火成岩で、表面に見られる特徴的なアパタは、この岩石に斑晶として入っていたカンラン石が、風化により分解して鉄さびを生じ、抜け落ちてできたものである。たいへん硬く重い石で、思う様にトリミングすることがなかなかできず、悪戦苦闘したが、なんとかお土産もできたようで20分程でその場所をあとにした。そこから約1時間で谷沢集落に出る。

谷沢から、車を止めてある敷地まで戻る途中の道路沿いに礫岩の露頭が見られる。よく見るとこの礫の分級度は低く、海底地すべりのような作用による堆積物と考えられるということだ。

その後、足久保川を対岸に渡り、砂岩層の向斜部分を観察した。軸の位置は特定できないが両翼の傾斜から向斜軸の存在を推定できる。ここで、長島副会長から、足久保地区で観察できる瀬戸川層群の概略の説明をしていただいて解散となった。なお、この川原には、愛好者の多い鉄丸石・馬蹄石があり、参会者の中にも熱心に捜し回る人がいた。

*静岡市立竜南小学校